

2-2 東北地方とその周辺の地震活動（1996年5月～10月）

Recent Seismic Activity in and around the Tohoku District (May, 1996-October, 1996)

仙台管区気象台
Sendai District Meteorological Observatory, JMA

1996年5月～7月、1996年8月～10月の各3ヶ月間の震央分布図を第1図(a)と(b)に示す。

この期間、東北地方とその周辺で発生した有感地震は208回観測した。このうち8月11日から活発化した秋田・山形・宮城県境付近の地震による有感地震が141回であった。各期間毎の主な地震活動を以下に挙げる。

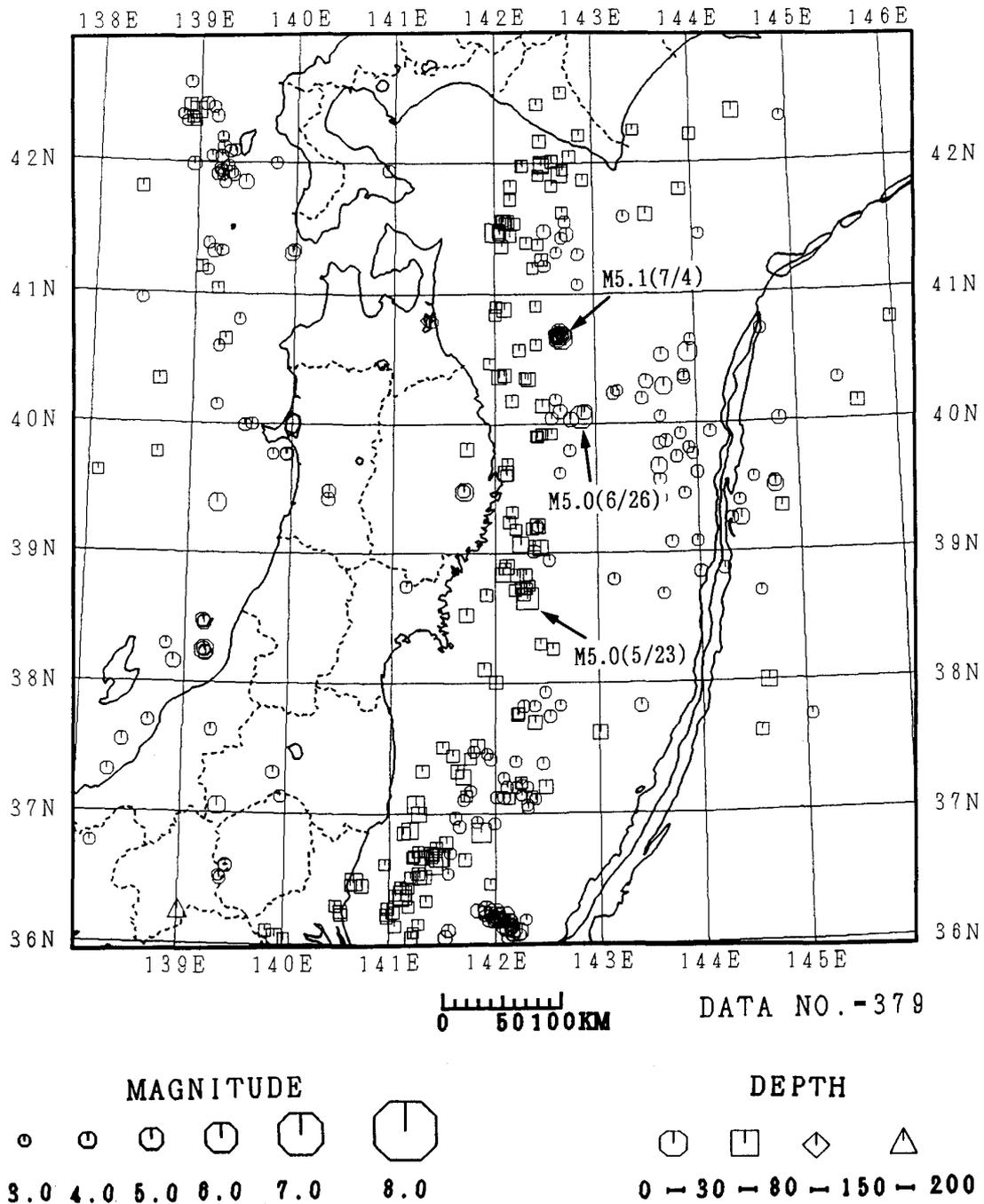
1996年5月～7月、この期間特に顕著な地震活動はなかったが、5月23日18時36分頃の宮城県沖で発生したM5.0の地震により、大船渡・石巻・一関・盛岡・大迫等で震度3を観測したほか、東北地方のほぼ全域で有感となった。この周辺で発生した、M5以上の地震は、昨年12月10日のM5.1以来の地震である。6月26日06時37分頃、岩手県沖の地震（M5.0、深さ22 km）により、青森と盛岡で震度2を観測したほか、東北地方北部から北海道南部にかけて有感となった。7月4日03時59分頃、青森県東方沖の地震（M5.1、深さ24 km）により、青森・むつ・八戸・盛岡等で震度2を観測したほか、東北地方北部から北海道南部にかけて有感となった。

1996年8月～10月、この期間で特に顕著な地震活動は、秋田・宮城県境付近で、8月11日03時12分頃にM5.9、03時54分にM5.4、08時10分にM5.7の地震が発生し、宮城県栗駒町沼倉でそれぞれ震度5を観測した。これらの地震により、震源地に近い宮城県鳴子町鬼首地区を中心に秋田・山形県で被害が発生した。震源域は秋田・山形・宮城の3県にまたがる南北約20 kmの地域に分布し、震源の深さは約5～15 km程度であった。これらの地震活動は10月まで続いた。（本巻別項参照）

（図中のマークは管内で最大震度Ⅲ以上及びM5以上の主な地震を示す。）

[震央分布図] 1996年5月1日~1996年7月31日 (M \geq 3.0, h \leq 200km)

(a)



(注) 図中のマークは管内で最大深度Ⅲ以上及びM5以上の主な地震を示す。

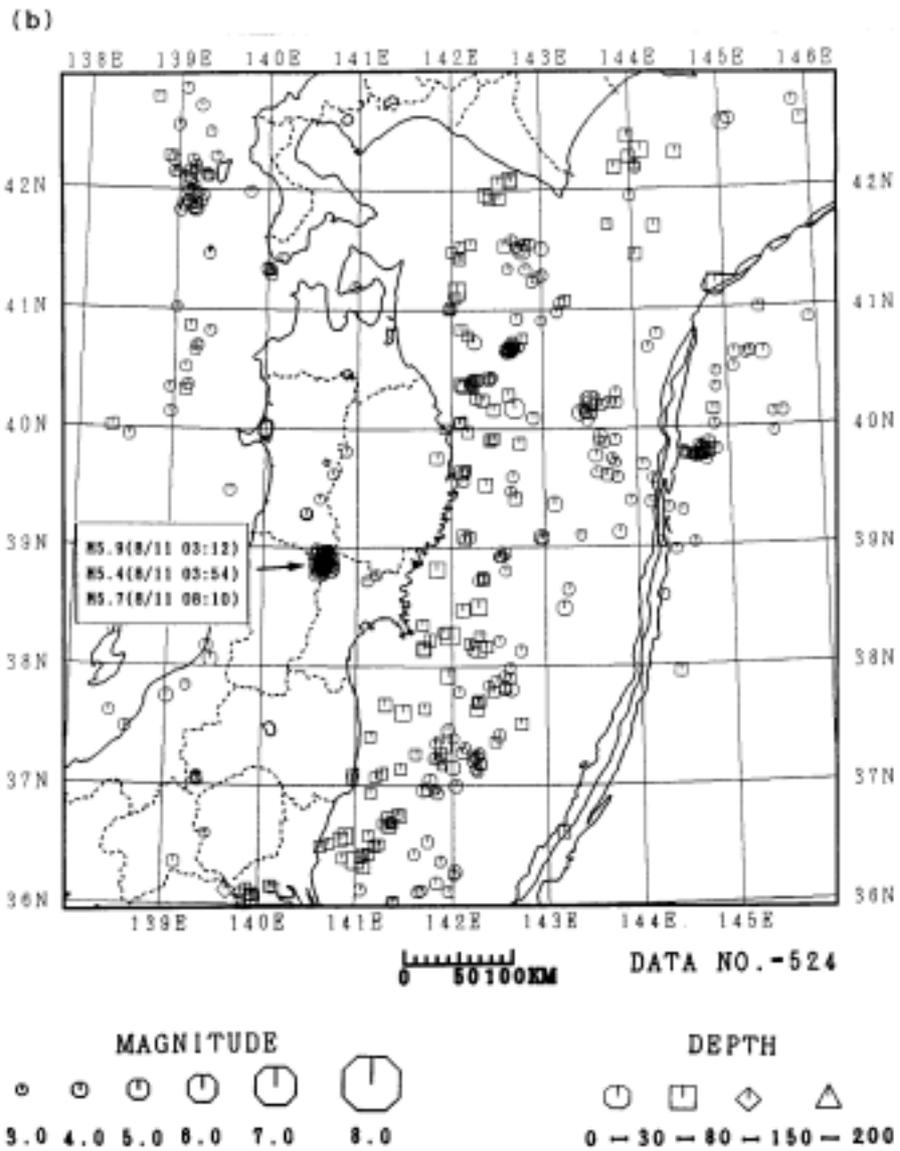
第1図 東北地方とその周辺で発生した地震の震央分布図：

(a) 1996年5月~1996年7月 (M \geq 3.0, h \leq 200 km)

Fig. 1 Epicentral distribution of earthquakes in and around Tohoku District :

(a) May, 1996 - July, 1996 (M \geq 3.0, h \leq 200 km)

[震央分布図] 1996年8月1日~1996年10月31日 (M \geq 3.0, h \leq 200km)



第1図 つづき (b) 1996年8月~1996年10月 (M \geq 3.0, h \leq 200 km)
 Fig. 1 (Continued) (b) August, 1996 - October, 1996 (M \geq 3.0, h \leq 200 km)